

保育者を目指す学生の表現・表現活動のとらえ方 — 領域「表現」の十分な理解のために —

桧垣 淳子 吉松 遊佳

Understanding of Expression・Expression Activity among the University Students in the Early Childhood training course — For fully understanding of the field “Expression” —

Junko Higaki Yuuka Yoshimatsu

(2021年12月1日受理)

1. はじめに

平成29年、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の3法令が改訂された。今回の改訂では、幼稚園教育において育みたい資質・能力がさらに明確化され、小学校教育へとつながる共通する力の育成が示された。また「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」として具体的に10の姿が明示され(10)に「豊かな感性と表現」が示された。領域「表現」は「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」領域であり、今回の改訂では内容の取扱いの一部が追加された。具体的なねらいは(1)色々なものの美しさなどに対する豊かな感性を持つ(2)感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ(3)生活の中でイメージを豊かにし様々な表現を楽しむである。すなわち領域「表現」では、日々の生活の中で子ども自身が様々な心を動かすことに出会い、豊かにイメージを広げ、それを幼児らしく自分なりに様々な表現し楽しむことがねらいと言える。そのために保育者は、幼児の興味や関心を引き出す魅力ある豊かな環境を構成し、表現しようとする子どもの気持ちを受け止め、心ゆくまで楽しめるよう寄り添い適切な援助をすることが大切である。

しかしながら、実際の保育現場では、必ずしも子どもの感性や表現力を養い、創造性を豊かにする環境や子どもが安心して自分なりの表現ができる保育の場が整っているとは限らず、保育者の意図することを表現することに終始している場合もある。また、子どもの自分なりの表現を保育者が受け止め、それを引き出す活動になっていないのではないかと、あるいはそのような表現活動を保育の中で実施するのは難しいという保育者の声もきかれ

る。一方、保育者養成校においては領域「表現」に造形表現、音楽表現、身体表現など様々な表現が含まれている点、あるいは学生の資質等の点から領域「表現」を取り巻く課題があげられている。中山⁴⁾は領域「表現」に含まれる身体・造形・音楽表現について「入学後間もない学生は、高校での教科授業の延長上の体育(ダンス)、美術・工芸、音楽科目としての捉え方が強い。特に「運動技能」「描写力」「演奏技能」としてコンプレックスが強い学生も少なくない」と述べており、幼児の発達をとらえた考え方に至っていない点を指摘している。尾崎ら⁵⁾は「まずは、学生のこの捉え方を崩すことが幼児表現活動への理解につながる」としている。米倉⁷⁾は「保育者を目指す学生自身が美しさや感動する心に乏しい、自分なりの表現ができない、イメージが豊かでない」と述べ、まずは学生の感性や表現力を高めることに授業を費やさなければならないと「表現」の授業の難しさを指摘している。また、藤本⁶⁾は身体・造形・音楽表現等の様々な表現を融合した表現の学びの必要性を言及する一方、いきなりこれらの多面的な表現をそのまま授業の中で学生に示し理解を求めるとは困難であると指摘している。

このような領域「表現」を取り巻く課題がある中、本学も現在、教職課程再課程認定に対応すべくカリキュラムの改正が求められている。これまでのカリキュラムや授業内容を踏まえ、どのように構想していけばよいのか、各表現の独自性、連携、あるいは学生の資質等様々な角度から検討する必要がある。そこで、まず、保育者を目指す学生に対して表現や保育現場における表現活動などのイメージを調査し、「表現」に対するとらえ方を把握し課題を明らかにすることとした。その上で、現行の幼稚園教育要領等を踏まえどのような学びが学生に必要か

を検討する基礎資料としたいと考え研究に着手した。

2. 方法

(1) 対象者

本学教育学部で幼稚園教諭・保育士資格の取得のために学ぶ2年生95名及び4年生81名、計176名である。対象者は、保育の専門的事項を学ぶ前の段階にあり実習が未経験である2年生と、保育の専門的事項をすでに学び実習を経験している4年生とした。これは、保育の専門を学ぶ前と後における「表現」のとらえ方の特徴や傾向を分析し課題を抽出することと、両者を比較し学生に必要な学びを検討するためである。

(2) 調査期間

調査期間は2021年5～6月、オンラインアンケートアプリケーション（Microsoft 365® Forms®, Microsoft Corporation, Washington, US）で作成し、オンラインで公開した。対象者には、研究の目的・方法、自由意思による参加、成績には一切影響しない、個人情報の保護、データは研究目的以外には使用しないことを説明した。そのうえでアンケートページのURLを提示し、参加者の回答の送信をもって同意とみなした。

(3) 調査内容

「表現」に関して思い浮かぶ言葉や保育における表現活動等、以下5項目について自由記述により回答を求めた。

- ①表現と聞くと、どのような言葉・内容が浮かびますか
- ②保育の現場において実践されている表現活動とって思い浮かぶ活動は何ですか
- ③保育の現場において、身体表現というどのような活動が思い浮かびますか
- ④保育の場において、音楽表現というどのような活動が思い浮かびますか
- ⑤あなたが子どもたちの表現や表現力に関わる活動を立てるとします。どのようなことをしますか。できるだけ具体的に書いてください。

3. 結果

自由記述にみられるキーワードを基に集計を行った。アンケートを行ったのは5項目であるが、まずは学生が「表現」や保育の場における表現をどのように捉え、イメージしているのか明らかにするため、①～④の設問について結果をまとめた。

(1) 「表現」から思い浮かぶ言葉・内容

図1に「表現」から思い浮かぶ言葉・内容について示した。2年生は、身体表現（20.8%）の活動に関する言葉や内容を挙げた割合が最も多く、次いで造形表現（17.3%）、音楽表現（13.7%）、言語表現（13.7%）、感情表現（12.6%）の順であった。4年生は、音楽表現（21.6%）、身体表現（19.6%）、造形表現（16.0%）、感情表現（11.6%）、言語表現（8.8%）の順であった。各分野をさらに分類した結果を表1に示した。2年生では、上位から言葉（11.7%）、ダンス・踊り（9.4%）、自分の

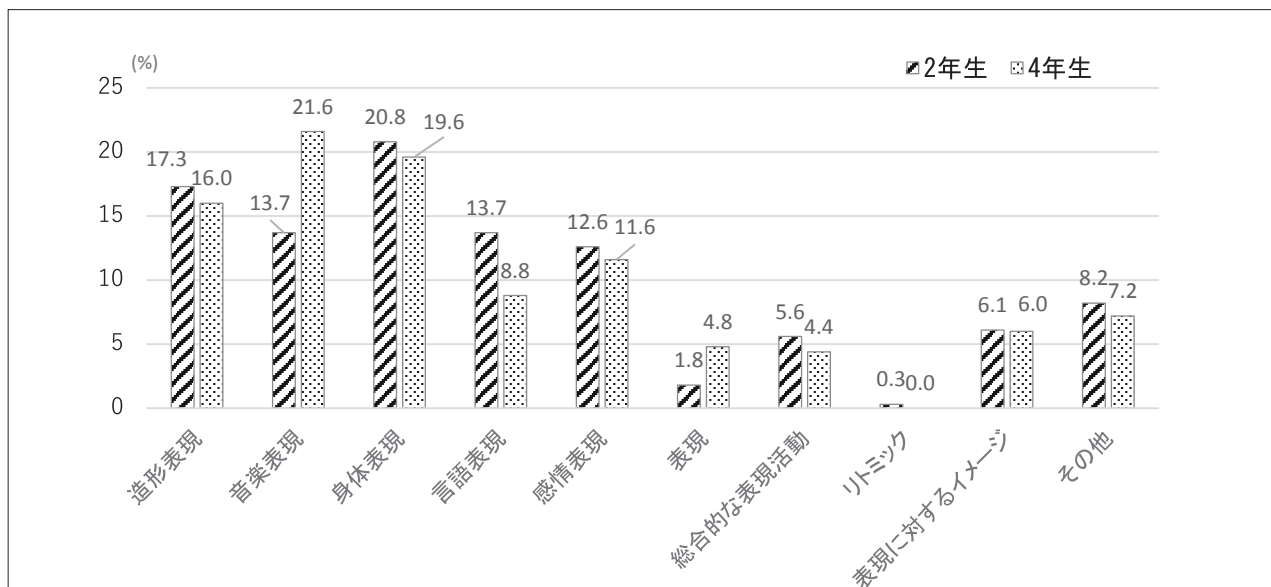


図1 「表現」から思い浮かぶ言葉・内容

(2年生：n=342 4年生：n=250)

※総合的な表現活動は、劇、運動会といった発表会形式をまとめた

表1 「表現」から思い浮かぶ言葉・内容

		2年生 (分母=342)		4年生 (分母=250)	
		n	(%)	n	(%)
造形表現	絵をかく	24	(7.0)	16	(6.4)
	制作・物を作る	15	(4.4)	9	(3.6)
	美術	12	(3.5)	3	(1.2)
	造形	8	(2.3)	12	(4.8)
音楽表現	音楽	23	(6.7)	30	(12.0)
	歌 歌う	21	(6.1)	13	(5.2)
	楽器・演奏	2	(0.6)	5	(2.0)
	音を鳴らす	1	(0.3)	6	(2.4)
身体表現	ダンス・踊り	32	(9.4)	18	(7.2)
	体を使って・身体表現	27	(7.9)	18	(7.2)
	身体を動かす 運動	10	(2.9)	12	(4.8)
	手遊び	2	(0.6)	1	(0.4)
総合的な 表現活動	劇・オペレッタ・ミュージカル	13	(3.8)	6	(2.4)
	芸術	5	(1.5)	2	(0.8)
	運動会	1	(0.3)	0	(0.0)
	発表会	0	(0.0)	1	(0.4)
言語表現	お遊戯会	0	(0.0)	2	(0.8)
	言葉	40	(11.7)	21	(8.4)
	文字・文章	7	(2.0)	1	(0.4)
感情表現	自分の気持ちを表す・態度	30	(8.8)	25	(10.0)
	表情	13	(3.8)	4	(1.6)
表現	表現する・自己表現	3	(0.9)	7	(2.8)
	身振り手振り・ボディランゲージ	3	(0.9)	5	(2.0)
リトミック	リトミック	1	(0.3)	0	(0.0)
表現に対する イメージ	自由	8	(2.3)	5	(2.0)
	個性	7	(2.0)	3	(1.2)
	想像力	2	(0.6)	6	(2.4)
	創造	2	(0.6)	1	(0.4)
	感性	2	(0.6)	0	(0.0)
その他	その他	28	(8.2)	18	(7.2)

※総合的な表現活動は、劇、運動会といった発表会形式をまとめた

気持ちを表す・態度 (8.8%)、であった。4年生は、音楽 (12.0%)、自分の気持ちを表す・態度 (10.0%)、言葉 (8.4%) であった。細目については、2年生、4年生ともに言葉や自分の気持ちを表すという数値が多い結果であった。

(2) 保育現場において思い浮かぶ表現活動

図2に保育現場において思い浮かぶ表現活動について示した。2年生は、造形表現 (33.6%) をあげた割合が最も多く、次いで、総合的な表現活動 (27.0%)、身体表現 (18.3%)、音楽表現 (12.6%) の順であった。4年生は、造形表現 (36.6%)、音楽表現 (23.3%)、身体表現 (16.3%)、総合的な表現活動 (8.2%)、リトミック (6.6%)

の順であった。2年生は4年生に比べ、総合的な表現活動の割合が多く、4年生は2年生比ベリトミックの割合が多かった。各分野をさらに分類した結果を表2に示した。2年生では、上位から制作・ものを作る44 (13.2%)、絵をかく41 (12.3%)、歌を歌う36 (10.8%)、ダンス・踊り33 (9.9%)、造形26 (7.8%)、劇・オペレッタ26 (7.8%)、お遊戯会25 (7.5%)、運動会20 (6.0%) となった。4年生では、上位から絵をかく41 (16.0%)、制作・ものを作る33 (12.8%)、歌を歌う31 (12.1%)、造形20 (7.8%)、ダンス・踊り19 (7.4%)、リトミック17 (6.6%) となった。

(3) 保育現場において思い浮かぶ身体表現活動

図3に保育現場において思い浮かぶ身体表現活動を示

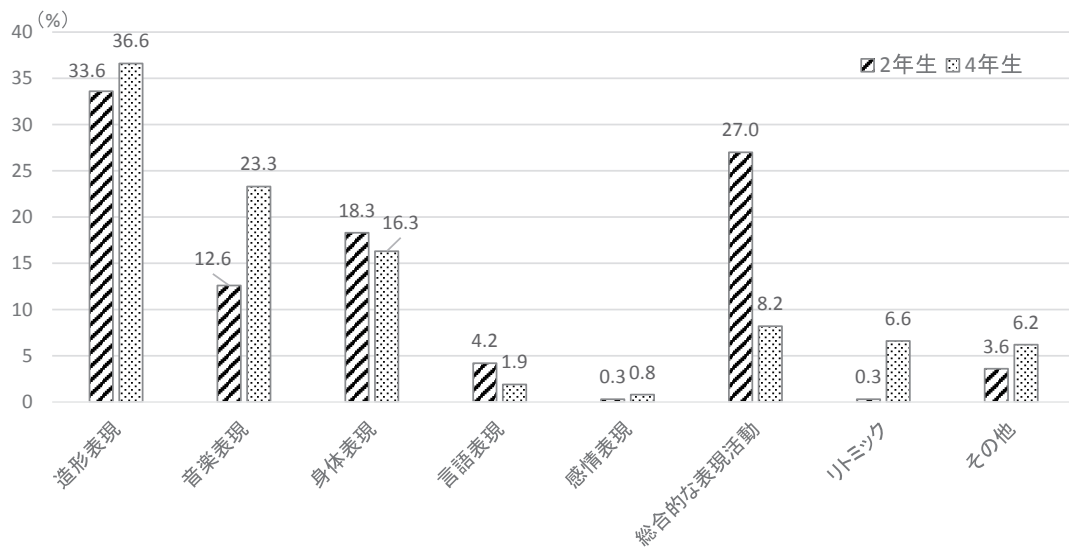


図2 保育現場において思い浮かぶ表現活動

(2年生：n=333 4年生：n=257)

※総合的な表現活動は、劇、運動会といった発表会形式をまとめた

表2 保育現場において思い浮かぶ表現活動

		2年生 (分母=333)	4年生 (分母=257)
		n (%)	n (%)
造形表現	制作・物を作る	44 (13.2)	33 (12.8)
	絵をかく	41 (12.3)	41 (16.0)
	造形	26 (7.8)	20 (7.8)
	美術	1 (0.3)	0 (0.0)
音楽表現	歌を歌う	36 (10.8)	31 (12.1)
	音楽	6 (1.8)	13 (5.1)
	楽器を演奏	0 (0.0)	16 (6.2)
身体表現	ダンス・踊り	33 (9.9)	19 (7.4)
	身体を動かす・運動	14 (4.2)	5 (1.9)
	手遊び	12 (3.6)	6 (2.3)
	身体表現遊び	2 (0.6)	6 (2.3)
	リズム遊び	0 (0.0)	6 (2.3)
総合的な 表現活動	劇・オペレッタ	26 (7.8)	5 (1.9)
	お遊戯会	25 (7.5)	5 (1.9)
	運動会	20 (6.0)	4 (1.6)
	音楽発表会	10 (3.0)	2 (0.8)
	発表会	9 (2.7)	5 (1.9)
言語表現	絵本を読む	8 (2.4)	0 (0.0)
	言葉	6 (1.8)	5 (1.9)
感情表現	自分の気持ちを表す	1 (0.3)	2 (0.8)
リトミック		1 (0.3)	17 (6.6)
その他		12 (3.6)	16 (6.2)

※総合的な表現活動は、劇、運動会といった発表会形式をまとめた

した。2年生は、ダンス・踊り(28.8%)が最も多く、次いで、総合的な表現(26.8%)、身体を動かす(18.0%)の順であった。4年生は、ダンス・踊り(33.8%)、身体表現遊び(17.7%)、リトミック(17.7%)の順であった。各項目をさらに分類した結果を表3に示した。2年生では、ダンス・踊り59(28.8%)、運動会21(10.2%)、劇・オペレッタ16(7.8%)、体操・身体を動かす・身体表現遊び・お遊戯会が各15(7.3%)となった。4年生では、(2)の結果と同様であった。

(4) 保育現場において思い浮かぶ音楽表現活動

図4に保育現場において思い浮かぶ音楽表現活動を示した。2年生は、歌(34.4%)が最も多く、次に楽器・演奏(19.4%)、総合的な表現活動(18.5%)、音楽と動き(14.5%)であった。4年生も、最も多かったのは、歌(30.8%)、次いで楽器・演奏(28.4%)であることは2年生と同様であるが、全体の約3分の1ずつを占めていた。3番目に多いのがリトミック(9.5%)であった。各項目をさらに分類した結果を表4に示した。2年生では、歌(29.1%)、楽器・演奏(13.2%)、ダンス(7.9%)、オペレッタ・劇(7.9%)であった。4年生は、歌(27.8%)、楽器・演奏(24.3%)、リトミック(9.5%)であり、歌と楽器演奏に関する活動が半数以上を占めていた。また、少数ではあるが、2年生と4年生において以下の異なる点がみられた。

2年生にのみ見られたもの：ピアノ・ピアノを弾く

4年生にのみ見られたもの：わらべうた

また、「～遊び」は2年生も4年生にも見られたが、4年生の方が活動の種類が多かった。

4. 考察

(1) 「表現」から思い浮かぶ言葉・内容

「表現」から思い浮かぶ言葉や内容は2年生：身体表現(20.8%)>造形表現(17.3%)>音楽表現＝言語表現(13.7%)>感情表現(12.6%)、4年生：音楽表現(21.6%)>身体表現(19.6%)>造形表現(16.0%)>感情表現(11.6%)>言語表現(8.8%)の順であり、大括りの分類では、両学年とも表現活動に関するものに次いで、自身を表現する事柄が多く見られる傾向であった。しかし、キーワードは分散傾向にあり、細目についてみると、2年生、4年生ともに言葉や自分の気持ちを表すという数値が上位にみられるとともに、少数ではあるが表現そのものに対するイメージを表した言葉(自由、想像力等)も見られた。

これらの結果は、「表現」という言葉から、自分自身が何か表現することをイメージして回答したのではない

かと推察されるが、表現活動に関する回答も多くみられたことから、これまでの授業において学んだこととも関連していると考えられる。

(2) 保育現場において思い浮かぶ表現活動

「表現」から思い浮かぶ言葉や内容では、造形表現2年生：17.3%・4年生：16.0%であったが、保育現場において思い浮かぶ表現活動では、2年生、4年生共に造形表現が3割を超えて最も多かった。また「表現」から思い浮かぶ言葉や内容では、身体表現(2年生：20.8%、4年生：19.6%)が造形表現(2年生：17.3%、4年生：16.0%)の割合を少し上回っていたが、保育現場での表現活動のイメージでは造形表現(2年生：33.6%、4年生：36.6%)が身体表現(2年生：18.3%、4年生：16.3%)を上回っていた。すなわち「表現」ときくと身体表現活動を思い浮かべるものの、保育現場においては絵をかいたり、ものを作ったりする造形表現活動の方をより身近に感じ、保育現場の表現活動のイメージが高いことがわかった。「制作・ものを作る」「絵をかく」「歌を歌う」「ダンス・踊る」「造形」は、2年生、4年生共に上位に出現しており、保育現場での表現活動のイメージが高いと考えられる。これら上位には、造形・音楽・身体表現全ての表現活動が含まれていた。言語表現においては、「表現」から思い浮かぶ言葉や内容では1割程度(2年生：13.7%、4年生：8.8%)出現していたが、保育現場での表現活動では2年生、4年生共に出現の割合(2年生：4.2%、4年生：1.9%)が低かった。幼児期は、まだ言葉や文字、文章を読む、書くことが十分でないことから保育現場の表現活動として思い浮かびにくかったと考えられる。

2年生は、お遊戯会、劇、運動会といった発表の場をあげた割合が3割近くにのぼり、4年生(8.2%)と比較して高い傾向にあった。一方「表現」から思い浮かぶ言葉や内容では5.6%と低く、2年生は行事のような発表の場を保育現場における表現活動とイメージしていることがわかった。しかし、表現活動では、日々の保育の中で子どもが心を動かされる体験を通してその子らしく様々に表すことを尊重し子どもの感性や表現力を育てていくことが大切であり、結果的に発表する場につながることはありえるが、特別な場で発表することをねらいとするものではない。また、子どもが感じたことなどを自分なりに表現する思いを受け止め、その過程を援助する—子どもの興味や関心、主体的な表現を引き出すこと—ことが保育者に求められているのであり、保育者主導型で表現活動が行われるものではない。本調査時、一部の「表現」授業が始まったばかりの2年生においては、今後、上記に述べた幼児の表現活動のあり方や保育者の役割等

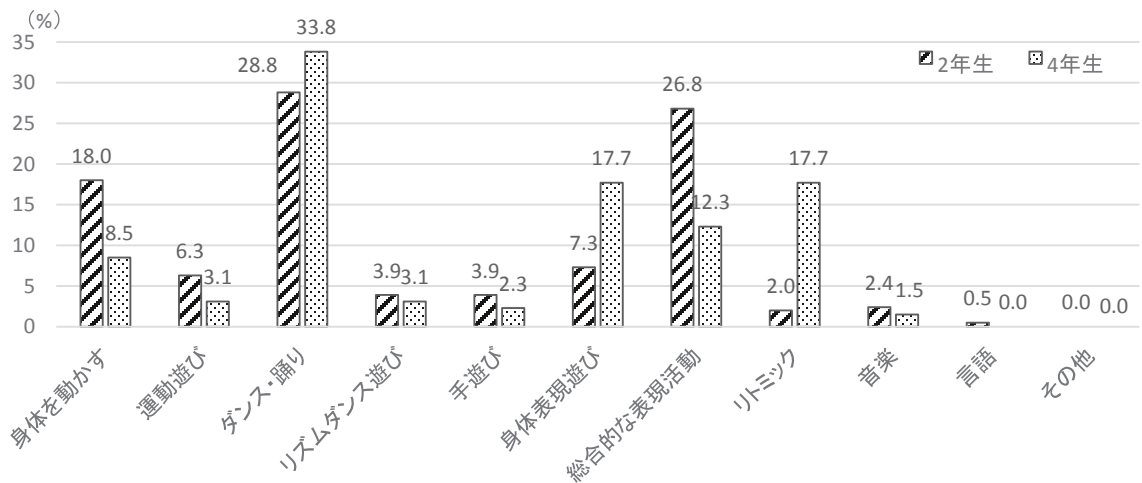


図3 保育現場において思い浮かぶ身体表現活動

(2年生：n=205 4年生：n=130)

※総合的な表現活動は、劇、運動会といった発表会形式をまとめた

表3 保育現場において思い浮かぶ身体表現活動

		2年生 (分母=205)		4年生 (分母=130)	
		n	(%)	n	(%)
身体を動かす	体操	15	(7.3)	8	(6.2)
	身体を動かす	15	(7.3)	3	(2.3)
	マット運動	3	(1.5)	0	(0.0)
	体操教室	2	(1.0)	0	(0.0)
	体育	2	(1.0)	0	(0.0)
運動遊び	運動遊び	13	(6.3)	4	(3.1)
ダンス・踊り	ダンス・踊り	59	(28.8)	44	(33.8)
	リズムダンス遊び	8	(3.9)	4	(3.1)
	手遊び	8	(3.9)	3	(2.3)
身体表現遊び	身体表現遊び	15	(7.3)	23	(17.7)
総合的な 表現活動	運動会	21	(10.2)	9	(6.9)
	劇・オペレッタ	16	(7.8)	6	(4.6)
	お遊戯会	15	(7.3)	1	(0.8)
	発表会	3	(1.5)	0	(0.0)
リトミック	リトミック	4	(2.0)	23	(17.7)
音楽	楽器	2	(1.0)	0	(0.0)
	歌	2	(1.0)	0	(0.0)
	音楽	1	(0.5)	2	(1.5)
話す		1	(0.5)	0	(0.0)

※総合的な表現は、劇、運動会といった発表会形式をまとめた

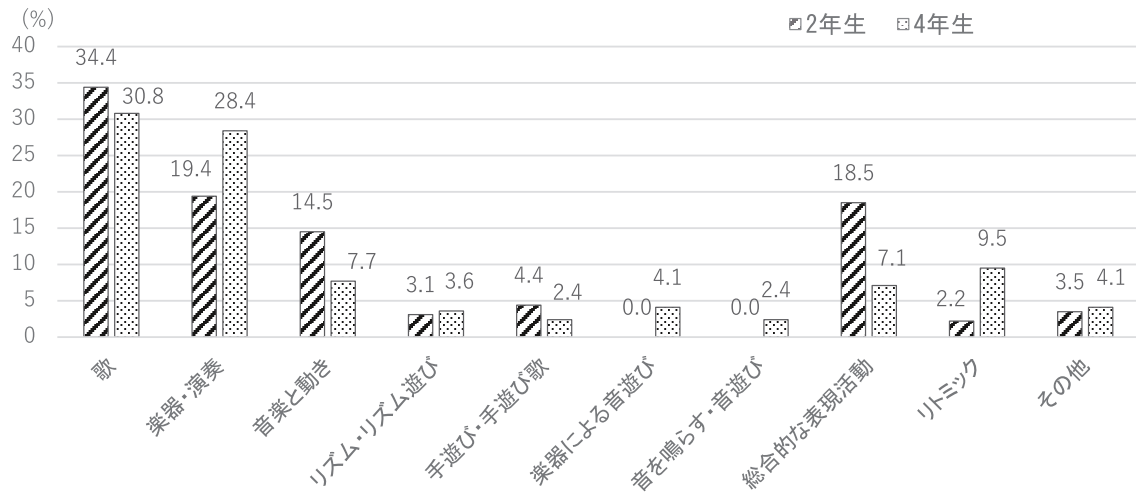


図4 保育現場において思い浮かぶ音楽表現活動

(2年生: n=227 4年生: n=169)

※総合的な表現活動は、劇、運動会といった発表会形式をまとめた

表4 保育現場において思い浮かぶ音楽表現活動

		2年生 (分母=227)		4年生 (分母=169)	
		n	(%)	n	(%)
歌う・歌	歌う・歌	66	(29.1)	47	(27.8)
	合唱	12	(5.3)	2	(1.2)
	わらべうた	0	(0.0)	3	(1.8)
楽器	楽器演奏・楽器	30	(13.2)	41	(24.3)
	合奏	5	(2.2)	4	(2.4)
	鍵盤ハーモニカ	5	(2.2)	3	(1.8)
	ピアノ・ピアノを弾く	4	(1.8)	0	(0.0)
音楽と動き	ダンス	18	(7.9)	8	(4.7)
	音楽・歌に合わせて踊る・体を動かす	15	(6.6)	5	(3.0)
遊び	手遊び・手遊び歌	10	(4.4)	4	(2.4)
	リズム・リズム遊び	7	(3.1)	6	(3.6)
	楽器遊び・楽器による音遊び	0	(0.0)	7	(4.1)
	音を鳴らす・音遊び	0	(0.0)	4	(2.4)
総合的な 表現活動	オペレッタ・劇	18	(7.9)	6	(3.6)
	演奏会・音楽発表会	14	(6.2)	2	(1.2)
	お遊戯会	8	(3.5)	1	(0.6)
	発表会	2	(0.9)	3	(1.8)
リトミック	リトミック	5	(2.2)	16	(9.5)
その他	その他	8	(3.5)	7	(4.1)

※総合的な表現活動は、劇、運動会といった発表会形式をまとめた

への理解を促すことが必要である。

(3) 保育現場において思い浮かぶ身体表現活動

2年生、4年生共に、「ダンス・踊り」をあげる割合（2年生：28.8%、4年生33.8%）が多かった。かつて身体表現は保育の領域では「遊戯」と称され、歌や音楽に合わせて振り付ける内容が主の音楽リズム的な位置づけであった。現在でも日頃の保育活動の中で既成のダンスを踊ることや音楽に合わせて踊ることは多く行われており、このような結果となったと考えられる。一方、身体表現活動として幼児自身のイメージで動く「自由な表現」や「模倣遊び」といった「身体表現遊び」をあげた割合は2年生7.3%、4年生17.7%であり、2年生は4年生に比べ低い傾向にあった。「身体表現遊び」のような身体表現活動は、平成元年の幼稚園教育要領改訂時に重視されるようになった。すなわち、平成元年の改訂時に初めて保育内容「表現」が設けられ、その際、身体表現については従前の音楽に付随するものとしての取り扱いを払しょくし、身体表現本来の特性を生かした教育が求められることになったのである⁹⁾。しかし、田辺⁸⁾は『改定後も保育者にとって保育現場での実践をイメージしやすい身体表現活動は「音楽やリズムに合わせて動くことや踊ること」であり、「動きの表現」が保育者に十分浸透していない、改訂後10年以上が経過しても同様の傾向が強い』と報告している。また高原ら¹⁰⁾は、1998年、2006年の調査において「平成元年の改訂後9年を経ての調査であったが、依然「音楽リズム」の流れが存在していた」とし、「それは2006年の調査においても同様で、幼児自身のイメージで動く「自由な表現」や「模倣遊び」は1998年より少なく、イメージを大事にした身体表現活動が保育現場で実践されていない様子がうかがえた」と述べており、日々の保育の中にダンス・踊ること以外のイメージを大事にした身体表現活動が十分に根付いていないと指摘している。2年生は、過去の自身の経験から回答したと推測され、このような保育現場の身体表現活動のあり方が今回の調査結果に影響した可能性があると考えられる。4年生では、ダンス・踊りに次いで「身体表現遊び」が約2割出現しており、2年生と比べ日ごろの保育の中で子どもの豊かなイメージを身体表現につなげる活動のイメージがあると推察される。回答に「身体表現」授業内容も多く含まれていたことから、授業が影響したと考えられる。しかし、本学の現行のカリキュラムにおいては「身体表現」の授業は選択となっており、4年生には未受講の学生も存在する。身体表現本来の特性を生かした身体表現活動が保育現場で根付くためには、養成校での学びの機会と内容が重要である。今回のカリキュラム改訂において「身体表現」授業が必修になるこ

とは望ましいが、教授する時間数は減少するので、同時に身体表現を学ぶのに適切な時間の検討が必要であると考える。4年生は2年生に比べて「リトミック」の出現が多かった。これに関しては推測の域を出ないが、実習先の保育活動で知ったことが関係しているのではないかと考えられる。

2年生は、身体表現活動として運動会、劇やオペレッタ、お遊戯会、発表会といった発表の場をあげる割合（26.8%）が4年生（12.3%）に比べ高かった。2年生は身体表現に関する授業や実習経験がないため、自身の運動会、劇、お遊戯会といった過去の経験が身体を使った場面の多い発表会等のイメージと結びついたと推測できる。しかし、先述したように身体表現活動に限らず保育現場での全ての表現活動は、日々の生活の中で豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするものであり発表することがねらいではないので、その点を十分に理解する必要がある。

(4) 保育現場において思い浮かぶ音楽表現活動

2年生：歌（34.4%）＞楽器・演奏（19.4%）＞総合的な表現（18.5%）＞音楽と動き（14.5%）であり、4年生：歌（30.8%）＞楽器・演奏（28.4%）＞リトミック（9.5%）＞音楽と動き（7.7%）であった。歌うこと、楽器を演奏することは2年、4年ともに上位で高い割合を示したことは、日常生活や授業からイメージが結びつき易かったのではないかと考える。2年生は3番目に多いものが総合的な表現となっており、劇・オペレッタや発表会という回答が多くみられた。この数値は4年生（7.1%）に比べてかなり多く、(2)で述べたものと同様の傾向であった。このことから音楽表現においても2年生は発表の場を表現活動と捉えていることが明らかになった。一つの理由としては、現在受講している授業内容が影響していると考えられる。`ピアノを弾く、という回答が2年生にしか見られなかったことも同じ要因であると推測する。また、もう一つの理由として、2年生は領域「表現」に対する知識が少なかったり、理解が浅かったりすることが推測されるが、それまでに修得する音楽科目の中で、`学び修得していることが何に繋がるものであるか、ということが、あまり印象づけられていなかったという課題が見えた。

4年生においては、リトミックが3番目に多かったこと、`～遊び、という回答の種類が2年生より多くみられたことが特徴的であった。新要領・指針において、「幼児の自発的な活動である遊びや生活の中で、感性を働かせてよさや美しさを感じ取ったり、様々なことに気付いたりして育んでいくことが重要」とされたが、`～遊び、

という回答が数種類確認できたことは、要領・指針を理解しているとともに、実習での経験から「遊び」を通じて育まれる表現をイメージすることができたのではないかと考える。しかしながら、歌と楽器演奏に関するもので6割強の回答があったことから、身近な日常から発したイメージだけではなく、実習の経験から園の中での用いられる頻度も多いのではないかと推測される。「歌うこと」「楽器を演奏すること」はまさしく音楽表現活動であり、回答数が多いことも想定されることであるが、完成された音楽を目指す保育者主導型の表現に陥る危険性も内包していることにも留意する必要がある、「歌うこと」「楽器を演奏すること」そのものを子どもが十分に楽しみ、美しさを感じ取るような保育や援助の方法を理解しておくことの重要性を改めて感じた。4年生に「リトミック」が多く出現したことに関しては、先に述べたように、実習先の保育活動で知ったことが関係しているのではないかと推測される。

5. おわりに

「表現」から思い浮かぶ言葉や内容は、表現活動に関すること、自身の気持ちを表すこと等、多くのキーワードが見られた。2年生、4年生ともに言葉や自分の気持ちを表すという数値が上位にみられたとともに、表現そのものに対するイメージを表した言葉も見られた。「表現」という言葉から、学生は自分自身が何か表現することをイメージして（表現活動に関する言葉も含めて）回答したものと推察される。

「造形表現」は、学生が保育現場における表現活動として思い浮かべる割合が高かった。2年生は運動会、劇、お遊戯会といった発表の場を保育現場での表現活動としてあげる割合が4年生に比べ高く、特徴的な傾向であった。「制作・ものを作る」「絵をかく」「歌を歌う」「ダンス・踊る」「造形」の活動は2、4年生共に上位にあげられ、保育現場での表現活動として捉えられていた。

学生が思う保育現場の身体表現活動はダンス・踊りが最も多く、身体表現本来の特性を生かした、イメージや動きをベースにした身体表現遊びなどは少ない傾向にあった。しかし、4年生になるとその割合は増加し、授業で扱った内容が多く出現したことから「身体表現」授業の重要性を感じた。また、本調査を分析する中で、保育現場においてダンス・踊ること以外の身体表現本来の特性を生かした身体表現活動が十分に根付いていないのではないかとといった従前からの課題も浮かび上がってきた。養成校においては、身体表現本来の特性を生かした保育を展開できる保育者を育成すべくカリキュラム構築や授業内容・時間の検討が必要と考えられる。

学生が思う保育の場における音楽表現活動については、歌や楽器演奏が2年生・4年生ともに多い傾向にあった。歌を歌ったり、楽器を演奏したりする活動そのものは音楽表現であるが、その方法が問われるところである。〓遊び、という、音との出会いを楽しむ活動が2年生よりも4年生に多く見られ見られたことは、領域「表現」の意図を捉えていると思われるが少数であった。「音楽表現」となるとパフォーマンス的なことがイメージされ易いことも明らかとなり、授業において領域「表現」との関連性を理解させることの重要性を再確認することとなった。

アンケート結果を分析することにより、学生が「表現」や「保育現場における表現活動」をどのように捉えているかが明らかになり、課題が見つかった。今後は、今回分析に至らなかった「子どもたちの表現や表現力に関わる活動」についての発想を分析し、領域「表現」を学生がどのように理解しているのか、明らかにしていきたいと考える。

6. 謝 辞

本研究にあたり、アンケートにご協力いただいた学生の皆さんに感謝いたします。

7. 引用・参考文献

- (1) 文部科学省 幼稚園教育要領 フレーベル館 平成30年
- (2) 厚生労働省 保育所保育指針解説 フレーベル館 平成30年
- (3) 内閣府, 文部科学省, 厚生労働省 幼保連携認定こども園教育・保育要領 フレーベル館 平成30年
- (4) 中山里美 総合的・横断的に領域「表現」を学ぶ授業の取り組み 富山短期大学紀要第54巻 pp.83-94 2018
- (5) 尾崎公彦, 青井則子, 入江慶太, 伊藤智里, 伊達希久子, 小合幾子 幼稚園教育要領改訂に伴う保育内容領域「表現」に求められる授業内容に関する考察—新しい教職課程のモデルカリキュラムとの比較を通して— 川崎医療短期大学紀要 38 pp.55-61 2018
- (6) 藤本逸子 子どもの表現を育む保育者養成—保育内容（表現）の授業を通して—東海学園大学教育研究紀要 第1巻 pp.165-170 2017
- (7) 米倉慶子 身体表現指導のあり方 実践報告 西九州大学短期大学部 幼児保育学科 pp.89-93 2017
- (8) 田辺圭子 保育内容における身体表現に関する一考察 北陸学院短期大学紀要 第38号 2006
- (9) 高原和子・瀧信子・宮嶋郁恵 保育者の保育内容「表現」の関わりとその方法—表現活動を引き出す手立てについて— 福岡女学院大学 人間関係学部第8号 pp.52-62 2007

- (10) 高原和子, 瀧信子, 矢野咲子, 怡土ゆき絵, 青木理子, 小川鮎子, 小松恵理子 保育者養成における体を使った表現(身体表現) 指導の実態 福岡女学院大学 人間関係学部第18号 pp.71-75 2017
- (11) 関山均 新幼稚園教育要領領域「表現」における造形表現の教育的意義の考察 鹿児島国際大学福祉社会学部論叢第39巻 第3号 pp.1-10 2020
- (12) 山下信子 保育内容「表現」の指導に関する研究: 幼稚園教育要領等の変遷に基づいて 聖和短期大学紀要第3号 pp.75-83 2017